

和
わ
和

第7号

発行・編集 奈良県障害者スポーツ指導者協議会
 〒636-0344 奈良県磯城郡田原本町宮森34-4
 奈良県心身障害者福祉センター内
 TEL 0744-33-3393 FAX 0744-33-1199

ホームページ <http://narakyougikai.holy.jp/>

Eメール narakyougikai@fm.holy.jp

現在の会員登録数 233名 (上級7名 中級40名 初級186名 平成22年12月31日現在)



一人ぼっちの障害者をなくすために

奈良県障害者スポーツ指導者協議会

会長 近藤 脩

あじさいの花が雨に映える梅雨の季節となりました。4月30日に当協議会の定期総会が開催されました。総会では本年度の方針として「スポーツデー」や「出前教室」に本格的に力を入れていくことが確認されました。

私も昨年の広報紙第5号で「家に閉じこもっている障害児・者をなくそう」を合い言葉に「スポーツデー」や「出前教室」に取り組みたいということを年頭の抱負として述べています。

今年度の総会では、昨年度の取り組みの反省に立つてもっと充実した、しかも誰もが参加できる内容のものにしようというのを協議会の方針として確認しました。

本年度の「スポーツデー」では昨年度のふうせんバレー、スカイクロスに加えてボッチャ、フライングディスク、室内ペタンクを取り上げる予定です。これらの種目は重度の障害者でも安心して取り組みられるものです。そのうえ施設や養護学校などへの「出前教室」を通して多くの障害者に親しんでいただきたいと思います。また、これらを取り組みを通して指導員自身もこれらの軽スポーツに習熟して頂きたいと思っています。障害者スポーツの競技指向がいわゆる今日、一方で地域での一人ぼっちの障害者をなくすための取り組みもそれ以上に重視されなければならぬと思えます。当協議会の会員のみならず、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成23年度のスポーツデー日程

いずれも第3土曜日、午前10時から正午まで

場所：奈良県心身障害者福祉センター体育館

6月18日	7月16日	9月17日
10月15日	11月19日	1月21日
2月18日	3月17日	

平成22年度事業報告

22年度総会

4月24日
奈良県心身障害者福祉センター
出席者19人
総会後に翌日の卓球会場設営サポート。

第10回奈良県障害者スポーツ大会のサポート

- 4月18日 バスケットボール(4人)
- ソフトボール(10人)
- 4月25日 卓球(13人) フットベースボール(7人)
- 5月16日 水泳(12人)
- 5月23日 陸上(35人)
- 5月30日 フライングディスク(21人)



競技会前に打ち合わせをするサポーター

第10回全国障害者スポーツ大会(ゆめ半島千葉大会)派遣選手団へのサポート

派遣期間 10月21日~26日
役員 橋本和典、広瀬栄明、島岡 眞、堀 良治、車谷明代、伊藤千代、岡林正紀、吉村元照、今西克巳、森下凌佑、西岡美弥子、濱田真人
同強化練習

7月19日 参加者22人(8人)
9月5日 参加者27人(9人)
10月3日 参加者26人(8人)

奈良県障害者スポーツ協会事業へのサポート

6月13日 ベタンク大会(10人)
11月7日 軽スポーツフェスタ(11人)
12月2日 ボウリング教室(3人)
2月16日~17日 ボウリング競技会(3人)
カッコ内数字は指導員参加数

奈良県心身障害者福祉センター事業へのサポート

軽スポーツ教室、健康体操教室、卓球教室、バトミントン教室、ペア運動教室

障害者スポーツデーの開催(実施種目: スカイクロス、ふうせんバレーボール)

6月19日、7月17日、9月18日、10月16日、11月20日、1月22日、2月19日、3月19日

初級障害者スポーツ指導員養成研修会

12月5日、18日、19日
受講者14人、全員修了、登録
広報誌の発刊
第6号(22年12月)
日本障害者スポーツ指導者協議会全国研修会に参加

23年2月12日~13日
神戸学院大学ポートアイランドキャンパスで、県から10人(実行委員を含む)参加。

理事会

4月24日、7月19日、9月5日、11月20日、2月19日、3月12日

決算報告書

平成22年度

(収入の部)

(単位:円)

項目名	決算額	摘要
登録費	154,000	700円×220名
繰越金	328,060	21年度より
補助金	100,000	日障協より地方研修補助金、近畿ブロック
受講料	56,000	初級指導員養成研修会
登録料	119,000	初級指導員登録申請料等
雑収入	46,061	競技規則集・帽子売上金、預金利息等
合計	803,121	

(支出の部)

(単位:円)

項目名	節・細節	決算額	摘要
報償費		44,000	初級研修会講師謝金
旅用費		51,020	初級研修会講師・全国代表会議
需用費	食糧費	3,130	初級研修会講師等昼食
	消耗品費	26,610	封筒・宛名シール
	印刷製本費	67,500	競技規則集、公式テキスト等
	修繕費	10,500	PC待避データ作成費
	役員費		60,406
役員費	通信費	55,336	総会案内等
	保険料	1,000	
	その他	4,070	振込手数料
使用料		3,150	HPサーバー使用料
負担金		10,000	全国研修会広告料
登録費		119,000	初級指導員登録費等
備品購入費		76,800	
次期繰越金		331,005	
合計		803,121	

平成23年度事業計画

平成23年度総会 4月30日

奈良県心身障害者福祉センター。
総会前に特別研修会「障害の理解（精神障害）」を開催。

平成23年度理事会

5月21日、7月24日、9月4日、
11月19日、1月21日、3月17日

障害者スポーツデーの開催

（原則として第3土曜日午前10時
～正午）

6月18日、7月16日、9月17日、
10月15日、11月19日、1月21日、
2月18日、3月17日



雨の中でのサポート（陸上競技）

実施種目

ふうせんバレー、スカイクロス、
ボッチャ、フライングディスク、
室内ペタンク

出前教室の開催

関係障害者スポーツ競技団体等
と連携して実施。

広報誌の発行

第7号（6月予定）
第8号（11月予定）

第11回奈良県障害者スポーツ大会
のサポート

4月17日 バスケットボール
ソフトボール

4月24日 卓球
フットベースボール

5月15日 水泳
5月22日 陸上
5月29日 フライングディスク

第11回全国障害者スポーツ大会
（おいでませ山口大会）派遣選手団
へのサポート

監督、コーチ、看護師、介助員
を10月20日～25日に派遣予定。

同強化練習
7月24日、9月4日、10月2日

奈良県障害者スポーツ協会事業へ
のサポート

6月12日 ペタンク大会

6月26日 カヌー教室

予 算 書

平成23年度

（収入の部）

単位：円

項目名	金額	摘要
登録費	161,000	700円×230名
繰越金	331,005	22年度から
補助金	-	地域研修会補助金
受講料	-	初級研修会受講料 4,000円×20人
登録料	-	初級指導員登録申請料等
雑収入	10,995	預金利息等
合計	503,000	

（支出の部）

単位：円

項目名	節・細節	金額	摘要
報償費		40,000	研修会講師謝金
旅費		40,000	府県代表会議旅費等
需用費		55,000	
	食糧費	5,000	会議費
	消耗品費	20,000	封筒・宛名シール
	印刷製本費	30,000	広報紙等
役務費		67,000	
	通信費	60,000	メール便・切手等
	保険料	5,000	傷害保険等
	その他	2,000	振込手数料等
使用料		5,000	会場使用料等
負担金		10,000	障害者スポーツ協会賛助会費
備品購入費		50,000	軽スポーツ用具等
予備費		236,000	
合計		503,000	

初級障害者スポーツ指導員養成研
修会へのサポート

11月6日 軽スポーツフェスタ
12月1日 身体障害者ボウリング教室
2月15日～16日 ゆうあいボウリング大会
12月3日～4日、
17日～18日の4日間。



FD競技へのサポート

誰もが参加できる競技を！

奈良県障害者スポーツ指導者協議会では、1面で近藤 脩会長が書いていますように、23年度の方針として、重度の人も一緒に、誰でも参加できる競技を「スポーツデー」や学校、施設への「出前教室」で普及を図ります。

取り上げる競技は、ふうせんバレーボール、スカイクロス、ボッチャ、フライングディスク、室内ペタンクの5種目。工夫をこらしたルールを中心に紹介します。今回はふうせんバレーボールとスカイクロスです。

ふうせんバレー

パラレル・ルール
で楽しもう

「重い障害の人も一緒に楽しめるスポーツを」こんな熱い思いから生まれた「ふうせんバレーボール」。でもレベルアップするにつれ、健常者の活躍が勝敗を左右する試合が多くなりました。

そこで大阪ふうせんバレーボール普及会が二〇一〇年の大阪大会から採用しているのが、パラレル・ルールです。HP（ハンディプレーヤー）「プレーをするのにハンディのある人」を中心にした展開をねらっています。当協議会の「スポーツデー」や出前教室も、このルールで行いま



す。全国大会ルールと異なるポイントとは、チーム1回目の打球は、身体の2箇所以上に連続して接触しても良い。アタッカーは1、3、5番ゼッケン着用。HPのみサーブは各チームで交互にAP（アドバンテージプレーヤー）「プレーに支障のない人」は、サーブ時にアタックラインを越えても踏んでもアウト。HPのドリブル、ホールディングは故意でない時はサーブアタックラインは中央線から1・98メートルのバトミントン用ショートサーブスラインを使用、が主なもの。サーブ権を交互にしたのは、全国大会ルールでは得点したチームにサーブ権があり、強いチームにサーブが集中するのを防ぐためです。

ほかに全国大会ルールと同じで「コート」バドミントンコート（ダブルス用）を使用。「ボール」直径約40センチに膨らませたふうせんに鈴2個を入れる

【チーム編成】HP 3人、5人と、AP 1人、3人と、ゼッケン番号は1、3、5がHP。2、4、6がAP。競技はハンディレベルが合計18点以内で行う。「反則」全員がボールを打ち、さらに10回以内に相手コートに返球するのが基本。全員が打っていない場合はナットアウト。10回以上の場合と同一プレーヤーが3回以上ボールを打った場合はオーバータイムなど。

スカイクロス

チームで
ソフトゴルフ

ソフトゴルフは、スタートラインからリングを投げ、何回でゴールのコーンにリングを投げ入れるかを競う個人競技です。これを重度障害の人から遠くまで飛ばせる人まで運動能力を組み合わせてチームを編成、ゴールを指す団体競技に工夫しました。ルールは、参加者



の障害によるハンディをつけられないことを目標にし、はじめに参加者全員でリングを投げる。同じ人数（3〜4人が適当）になるようチームを編成する。構成は一番飛んだ人と飛ばなかった人、次いで2番目に飛んだ人と飛ばなかった人、という形で組み合わせ、各チームの力がバランスよくなるように組む。ゴールのコーンはチーム数だけ用意する。リングを投げる順番は各チームで作戦を考えて決める。ローテーションで投げる。ゲームはスタートラインから一斉にリングを投げ、2投目がコーンに落ちた場所から投げる。

何投でコーンに入ったかで勝敗を決めるといっもの。奈良市の「たんぼの家」で考案、今年2月12日に開かれた全国障害者スポーツ指導者協議会主催の全国研修会で「施設のスポーツ活動」として発表しました。昨年春から毎月1回の「スポーツデー」で実施。現在、20メートルも投げることも出来る人から車椅子まで、18人が参加して楽しんでいきます。遠くまで飛ばすことが得意な人は飛距離を稼ぎ、苦手な人は作戦を考えながら一歩ずつリングを繋いで行きます。運動能力の違いは励まし合い、助け合いを生み、ゲームが盛り上がり、またローテーションで投げるので、飛ばない人でも、コーンに入れる一番の見せ場に出会うチャンスがあり、ヒーローになることも。ゲーム中は歓声が絶えませんが、足でリングを投げる器具を考案した人もいます。初めてのグループでも、最初の試投で

簡単にチーム編成ができますので、他流試合もOKです。

編集後記



広報紙「和和」7号をお届けします。2、3面に平成23年度の総会報告を特集しました。また今年度は、障害のある人たちがこそって参加できるスポーツの普及を目指し活動します。1面に近藤会長の呼びかけ、4面に具体的競技のルールやその狙いをまとめました。現場で指導される際の参考に、なれば幸いです。一緒に頑張りましょう。

（山田 記）